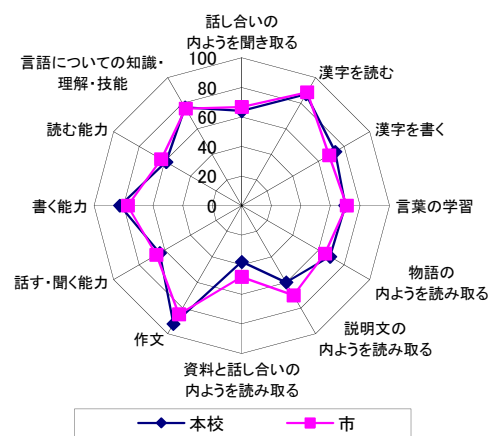


宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	64.0	66.6
	漢字を読む	87.0	88.4
	漢字を書く	73.0	68.2
	言葉の学習	70.0	71.0
	物語の内ようを読み取る	69.0	64.9
	説明文の内ようを読み取る	60.0	70.1
	資料と話し合いの内ようを読み取る	38.0	48.3
	作文	92.5	84.9
観点別	話す・聞く能力	64.0	66.6
	書く能力	82.4	77.1
	読む能力	59.1	63.0
	言語についての知識・理解・技能	76.8	75.8



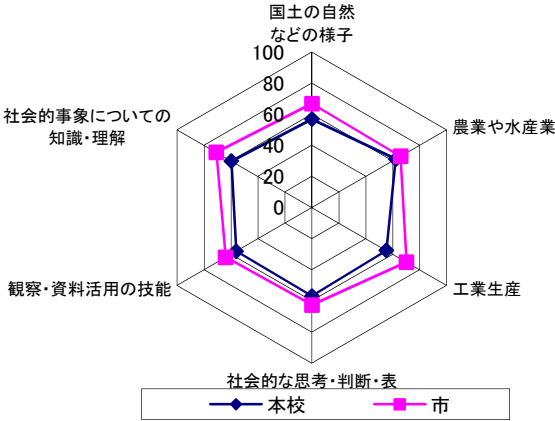
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞きと取る問と話し方の工夫を考えながら話の内容を聞き取る問題が出題されたが、前者は市の平均を下回り、後者は上回る結果となった。また、司会者の役割を理解して、適切な言葉づかいで話す問題では、市の平均を約3点下回る結果となった。	話を静かに聞くことができるが、内容をよく理解していないこともあるので、よく聞いていても、きちんと聞いているか確かめたり内容を問うてみたりしていく。話し手の意図が伝わっているか確かめることを国語のみならず、日常的に行う。また、適切な言葉遣いについても国語はもちろん、学級活動や集会の司会等を体験させることで身に付けさせる。
漢字	第4学年配当漢字の読み書きと、第5学年配当漢字の読みの問題が8問出題された。8問中6問が市の平均正答率を上回り、2問が下回った。	日常的に漢字の書き取り練習を行っているので、今後も継続して行っていく。また書けなかったり読めなかったりした漢字を繰り返し練習させ、定着を図る。
言葉の学習	漢字の成り立ち、ことわざの使い方、句読点の打ち方、同音異字の使い分けの問題が出題された。漢字の成り立ちは市の平均を上回ったが、国・市・校内ともに40点台と低い。ことわざの使い方と句読点の打ち方はほぼ平均並み。同音異字の使い方は下回った。	漢字には意味があることや漢字の部首にも意味があることを知らせ、意味が分からない言葉も漢字で表すことにより意味を類推することができる楽しさを体験させていく。句読点の位置により、文の意味がちがってくる面白さも十分体験させ、興味をもって問題に取り組めるようにする。
物語の内ようを読み取る	場面の情景を読み取る、登場人物の気持ちを読み取る、場面の情景を読み取る、場面の描写をとらえて、表現の特徴をつかむ問題が出題されたが、どの問題も市の平均正答率を上回った。	文章の内容の読み取りは国語の学習の大切なことの一つであるので、今後も継続して、場面の情景や登場人物の心情をとらえ、自分の考えをまとめる学習をしていく。また、読書することが読み取りの力を引き上げるので、今後も読書を奨励していく。
説明文の内ようを読み取る	文章の内容を的確に読み取る問題と、文章の構成をとらえながら、内容を的確に読み取る問題が出題されたが、どちらも市の平均正答率を下回った。	説明文などの論理的な文章の読み取りの強化を図るため、国語の音読はもとより社会や理科の教科書の音読もさらに行っていく。その際、意味の分からない語句を進んで辞書で調べる学習を奨励する。
資料と話し合いの内ようを読み取る	与えられた資料を読み取り、求められている情報を的確に取り出す問題と話し合いの内容を正確に読み取って考える問題が出題されたが、どちらも市の平均正答率を下回った。	資料をさっと見てすぐに問題に答えてしまう傾向にあるので、資料をじっくり見て資料から読み取れることは何かを確認してから問題に取り組ませるようにする。また話し合いの結果だけに目を向けず、だれが何を言っているのか過程をよく確認していくようにする。
作文	指定された長さで文章を書くことや2段落構成で文章をかくこと、自分の意見とその理由を区別して書くことを条件とした作文の出題であったが、どれも市の平均正答率を上回った。	スピーチ原稿や日記等、書くことが得意な児童が多いので、継続してそのような学習活動を取り入れる。また、書いたものを互いに読み合うなどして、さらに表現力が身に付くようにしていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	56.8	66.7
	農業や水産業	62.2	65.8
	工業生産	55.2	70.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	56.9	62.7
	観察・資料活用 of 技能	56.2	64.1
	社会的な事象についての知識・理解	59.7	70.9



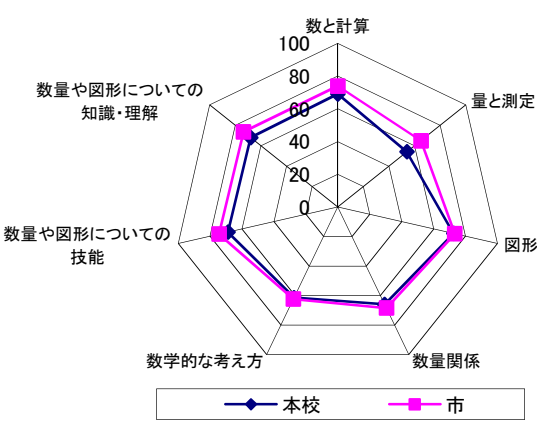
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	世界の中の国土と日本の国土と人々の暮らしから計10題、出題された。そのうち2題は市の平均正答率を上回ったが、8題は下回った。	地図や地球儀で世界や日本をを眺めたり、世界の大陸や海洋、主な山地や平野、川の名を調べたり覚えたりする活動を充実させていく。
農業や水産業	日本の農業から3題、水産業から4題、日本の食料生産から2題、計9題出題された。そのうち3題は市の平均正答率を上回り、6題は下回った。	農業にしても水産業にしても、児童に馴染みのない語句が多くあり、混乱しているため、それらが何を意味しているのかを辞書で確認したり映像を見せて視覚的に理解したりする学習活動を多くしていく。
工業生産	自動車をつくる工業から5題、工業と工業地域から3題、工業生産と貿易から2題、計10題出題された。そのうち全て市の平均正答率を下回った。	工業分野に関しても、貿易、輸出、輸入、関連工場等児童に馴染みのない語句により混乱している。その状況を打破するために、語意を調べるほか、易しい言葉で言い直して説明するなどの学習活動をさらにしていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	69.0	73.9
	量と測定	54.0	65.0
	図形	72.6	73.2
	数量関係	66.0	68.5
観点別	数学的な考え方	61.5	62.4
	数量や図形についての技能	68.8	74.4
	数量や図形についての知識・理解	68.0	73.6



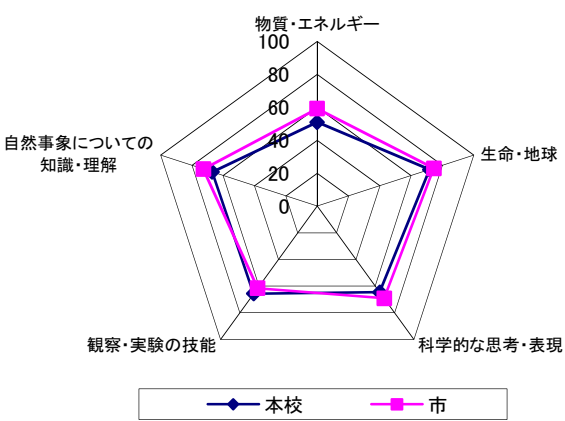
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	分数の足し算、引き算、小数の掛け算、割り算が出題された。そのうち小数第二位÷整数＝小数第二位(商が純小数)の計算と小数第二位×小数第一位の計算が市の平均正答率を大きく下回った。他に整数を偶数・奇数に分ける問題、最小公倍数を理解しそれを求める問題も大きく下回った。残りの問題はほぼ平均並み。	通分の仕方や計算の仕方を理解している児童が多いが、未だよく理解していない児童や理解していても計算ミスをしてしまう児童が少なからずいる。計算問題を繰り返し取り組むことにより、ミスなく計算できるようにしていく。また、見直しを徹底させる。偶数・奇数に関しては、もう一度よく解説し理解させる。最小公倍数は通分にもつながるので、繰り返し取り組ませることでマスターさせる。
量と測定	直方体や立方体の体積を求める問題、単位量あたりの大きさ・平均を求める問題から出題された。そのうち大きく市の平均正答率を下回ったのは、立方体の体積を求める式を問う問題。1辺が7cmの立方体の体積を求める問題で、正答は7×7×7の選択肢を選べばよいのだが、面積と勘違いしたのか7×7の選択肢と、7×7×7×7の選択肢を選んだ児童が多かった。	平易と思われる内容で誤答が多いので、体積や面積の求積公式を確実に覚えさせ、公式を使って体積や面積を求めるようにさせるほか、なぜその公式に当てはめると、体積や面積が求められるのかをしっかりと考えさせたり理解させたりしていく。
図形	垂直・平行と四角形から2題、図形の角から3題、合同・立体から2題出題された。この中で大きく市の平均正答率を下回ったのは、三角形の内角の和が180°であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題である。	外角(この言葉は5年では習わないが)は三角形の1つの内角と合わせて180°になることに気付かせる。そのとき角を集めて180°になったことを想起させ、考え方はそれと同じことであることに気付かせる。授業の中では、図形の性質を確認しながら筋道を立てて考えられるよう、引き続き指導していく。ドリル学習等を通し、習熟を図っていく。
数量関係	伴って変わる二つの数量の関係を式に表す問題(比例の関係を式に表わす問題)と計算のきまりを小数へ拡張する問題が出題された。このうち伴って変わる二つの数量の関係を式に表わす問題の方は市の平均正答率を下回った。	比例の式は文字式のはしりなので、最初戸惑うことがあるが、型を覚えてしまえばすぐにマスターできるの。比例の関係にあると分かったらすぐに比例の式を考えさせるようにして、慣れるようにさせる。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	51.0	59.3
	生命・地球	71.8	74.4
観点別	科学的な思考・表現	64.7	69.2
	観察・実験の技能	65.7	61.6
	自然事象についての知識・理解	67.1	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	ものの体積と温度から2題、もののあたたまり方から2題、水のすがたから4題、計8題出題された。そのうち水を加熱するときに、沸騰石を入れる理由を問う問題は市の平均正答率を上回ったが、その外はすべて下回った。	これらの単元はすべて前学年で扱うものなので、現在履修中のものを前学年と系統立てたり関連させたりしながら学習することで定着を図る。
生命・地球	「水のゆくえ」から2題、「植物の発芽と成長」から4題、「顕微鏡の使い方」から2題、「植物の花のつくりと受粉」から3題、「魚のたんじょう」から4題、「雲と天気の変化」から5題、「流れる水のはたらき」から3題、計23題出題された。この中で市の平均正答率を大きく下回ったのは、夕焼けの翌日は晴れることが多いことを科学的に理解していることを問う問題。	東西南北の方位がある問題において、理科でも社会でも苦手意識がある児童が少なからずいる。生活する中でも方位はよく使われるので、理科や社会で方位が出てきたときや生活の中で出てきたときは、すぐにどんなことを意味しているのかを確認することで、定着を図る。